「100億宣言」申請へ

たかくら

自社一貫体制で事業拡大、おが粉工場も計画

たかくら（兵庫県豊岡市、高倉卓男社長）は、中小企業庁の「100億宣言」に申請する。鶏舎や畜舎、倉庫などの建設事業で土地探しから用地の造成、建築までの自社一貫体制を構築して受注力向上と売り上げ拡大を図るとともに、用地の造成に伴って伐採する支障木の受け皿として新たにおが粉工場を建設して家畜敷料などの生産を始める。課題は、事業拡大に伴って多忙化する業務の効率化で、AIを使ったシステム化で克服しようとしている。

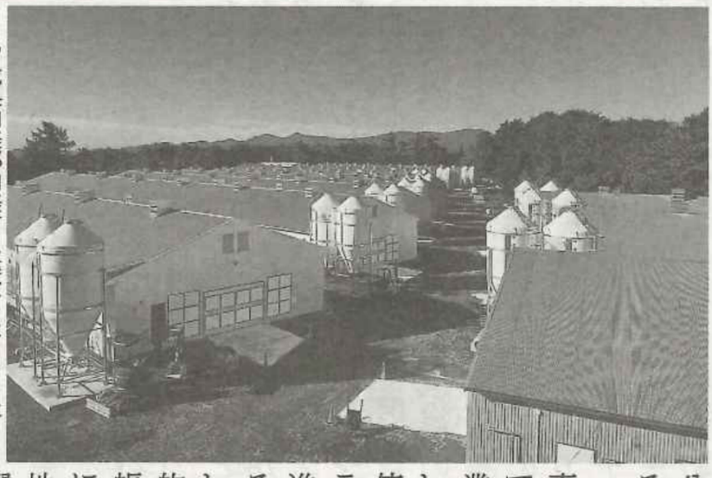
100億宣言は、売上高100億円の目標を目指し、実現に向けた課題に取り組むことを宣言する制度。登録されると100億企業実行事務局が運営するポータルサイトに掲載され、情報発信できる。

同社は2019年に設立、24年4月に2×4コンポーネント大手であるウイング（東京都、倉田俊行社長）の子会社となった建設会社で、ウイングの信用力で元請け受注が可能になり、26年2月期の売上高は23億円超と前期の5億円から大幅に増えた。

今年3月に仙台市の電気工事会社を取得、4月には不動産業の認可も取得し、土地探しから用地の造成、設計、施工、電気工事まで一貫して手掛けられるようになった。「電気工事は建築費の2割程度を占めており、内製化する意義は大きい」（橋本宰会長）。

おが粉工場は、宮城県大崎市に建設する。敷地面積は約1万平方㍍で、生産量は年間2万7000立方㍍。投資額は土地、建物、機械の合計で約2億円。来年度中の竣工を予定している。原料は用地開発で発生する支障木のほか、地域から間伐材も集荷する。おが粉は家畜敷料としての引き合いが多く、提案力の向上につながるとみている。

工期などの事情から今期の売り上げは20億円前後となる見込みだが、物件受注は順調に増えており、来期は50億円、再来期は130億円への増加を見込んでいる。従業員数はたかくらが50人、電気工事会社が15人。おが粉工場を別にして売上高100億円に向けた建設事業の人員確保は十分とみている。



宮城県加美郡加美町に建設した300坪12棟の大規模鶏舎

業務の効率化に向けては学生起業家に依頼し、AIを使ったシステム開発を進めている。土地探しでは、公的な土地台帳から条件に合った用地を自動で選定するシステム、施工管理では、作成した図面情報から資材の積算、発注、工程管理までを自動化するシステムの開発を進めている。

「土地探しは、畜産専門の不動産業者が少なく、自社で探して直接交渉した方が早いと判断した。施工管理のシステム化は、2人の施工管理者に集中している確認作業を実務者が自分でできるようにすること、情報を一元的に管理して全体を最適化すること、物件が増えても管理品質を維持することが目的。AIの学習機能を活用して運用しながら機能の向上を図っていく」（同）。